科目名	子ども家庭福祉Ⅰ		担当教員	真鍋　顕久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1CSR107
期待される学修成果	子ども理解　自己形成				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	グループワーク				
実務経験	相談援助職				
実務経験を生かした授業内容	相談援助職の経験を生かし、ソーシャルワークについて講義する				
到達目標及びテーマ	1．子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷を理解する。2．子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権について理解する。3．子ども家庭福祉の 制度や実施体系等について理解する。4．子ども家庭福祉の現状と課題について学ぶ。				
授業の概要	子ども家庭福祉の授業では、子どもの発達を踏まえたうえで子ども家庭福祉の必要性について理解する。子ども家庭福祉の歴史的経緯と今日に至った子ども家庭福祉の概念やその背景となる社会の発達、子どもを支える価値について学び理解を深める。また、子ども家庭福祉を生活問題への対応策として捉え、生活問題の担い手となる対象者に対する社会福祉的支援・処遇について学ぶ。				

授業計画	
第1回	子ども家庭福祉とは
第2回	子ども家庭福祉を取り巻く状況
第3回	子ども理解（子どもの成長と発達：自我と自立）
第4回	子ども理解（子どもの成長と発達：子どもと社会）
第5回	子ども家庭福祉の歴史的変遷（イギリスを中心に）
第6回	子どもの権利（子どもの権利条約）
第7回	わが国の児童家庭福祉の歴史的変遷
第8回	子ども家庭福祉の制度と法体系
第9回	子ども家庭福祉の実施機関
第10回	児童虐待とは
第11回	児童虐待への法的対応
第12回	要保護児童対策地域協議会について
第13回	社会的養護について（施設養護・里親）
第14回	社会的養護について（ホスピタリズム）
第15回	まとめ（第1回から第14回までの内容）

事前学修	2時間	提示された課題に取り組む。テキストの指定されたページを読む
事後学修	2時間	教授された内容を整理しておく。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	Eメールでの質問を受け付ける。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
レポート	60%	授業内容に関するレポート課題を出す（理解度に応じ評価する）
上記以外の試験・平常点評価	40%	積極的な授業への参加姿勢を評価する
定期試験	0%	実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　よくわかる子ども家庭福祉「第2版」	吉田幸恵、山縣文治　編著	ミネルヴァ書房	9784623095131	「第2版」を購入すること。
参考資料	授業において適宜資料を配布する。			

科目名	子ども家庭福祉Ⅱ		担当教員	真鍋　顕久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2CSR408
期待される学修成果	子ども理解　態度				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	プレゼンテーション				
実務経験	相談援助職				
実務経験を生かした授業内容	相談援助職の経験を生かし、ソーシャルワークについて講義する				
到達目標及びテーマ	１．子ども家庭福祉の各種制度について理解を深める。２．子どもの健全育成、児童館活動、放課後児童健全育成事業等の子育て支援の現状と課題について理解する。３．要保護児童等と社会的養護の在り方について考える。４．諸外国の子ども家庭福祉について理解する。				
授業の概要	子ども家庭福祉Ⅰを踏まえ、子ども家庭の各種制度についての現状と課題について理解を深める。子ども家庭福祉の専門職としての保育士の活動等について理解する。学びを深めるために、事例を通じて、子ども家庭の生活を理解するとともに、保育士による支援の実践活動を学ぶ。また、各自が子ども家庭に関する研究テーマに取り組み、その成果を発表する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション　子ども家庭福祉等機関１（児童相談所、福祉事務所）
第2回	子ども家庭福祉等機関２（要保護児童対策地域協議会）
第3回	子ども家庭福祉サービスの施設１（児童養護施設）
第4回	子ども家庭福祉サービスの施設２（乳児院）
第5回	ホスピタリズムについて考える
第6回	里親の現状と課題
第7回	養子縁組制度の現状と課題
第8回	子ども家庭福祉サービスの施設３（母子生活支援施設，児童心理治療施設）
第9回	施設内虐待について考える
第10回	子ども家庭福祉のサービスの第3者評価について
第11回	障がい児のための福祉サービスの現状と課題，ひとり親家庭に対する福祉サービスの現状と課題,
第12回	医療保育のあり方について
第13回	家庭的保育の現状と課題
第14回	個人研究発表１ 制度政策に関すること
第15回	個人研究発表２　援助技術に関すること

事前学修	2時間	各回の授業の最後に、次の授業に関する学習についてその都度指示をする。
事後学修	2時間	授業で学んだことを整理しておく。必要に応じて課題を与える。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	授業の最後に質問タイムを設け、感想や疑問に思ったことを率直に述べてもらい、それに対してコメントをする。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	60%	授業内容に関するレポート課題を出す
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への積極的な参加姿勢
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　よくわかる子ども家庭福祉「第2版」	吉田幸恵、山縣文治 編著	ミネルヴァ書房	9784623095131	「第2版」を購入してください。
参考資料	授業において適宜資料を配布			